

第1回滑川市総合計画審議会開催結果

開催日時 令和5年11月24日（金） 17:00～18:00

会場 滑川市役所東別館3階大会議室

出席者 委員15名

市長、副市長、教育長、総務部長、健康福祉部長、産業民生部長、建設部長、事務局（企画政策課）

	委員	所属	備考
1	池田 文也	滑川漁業協同組合	
2	稲場 康晴	滑川市小・中学校PTA連合会	代理出席
3	浦島 成友	連合富山新川地域協議会	
4	大槻 拓美		
5	金川 充	アルプス農業協同組合	
6	川崎 令子	滑川市ボランティア連絡協議会	
7	車谷 亮	滑川市医師会	欠席
8	澤田 隆之	滑川市自治会連合会	副会長
9	高原 和彦	北日本新聞新川支社	
10	竹林 利浩	北陸銀行滑川支店	
11	西元 正史	滑川市社会福祉協議会	
12	西山 剛	滑川青年会議所	
13	蜷川 徳子	学校法人同朋学園	
14	八橋 謙二	滑川市体育協会	欠席
15	原 洋子	滑川市連合婦人会	
16	星名 照彦	滑川商工会議所	
17	山岸 玲子	滑川市民生委員児童委員協議会	
18	山西 潤一		会長
19	山西 宏明		

議 事 ①第5次滑川市総合計画改定（検討案）などについて
②今後のスケジュールについて

上記2件について、包括的に自由に意見を交わして頂いた。内容については別紙のとおり。

【事務局】

定刻になったので総合計画審議会を開催する。
まずは市長から、滑川市総合計画の変更について会長へ諮問する。

【水野市長】

滑川市総合計画の変更について、総合計画審議会条例第1条の規定に基づき諮問する。

(市長が会長に諮問書を手渡す。)

【会長】

諮問があったので審議に入る。総合防災計画案について、事務局より説明願う。

【事務局】

資料1について説明する。現在の計画は令和3年度からスタートしているが、その間、コロナなども含めて、社会変化、環境の変化、DX、SDGsなどの新たな取り組みへの対応等が求められたことにより、今回第5次総合計画について、まちづくり共創会議で出た意見等を踏まえて、改定することとした。総合計画の基本構想の部分については、第1章総合計画策定の趣旨について、計画期間を含めて変更はなしとしている。従って、今回改定を行いますが計画の終了時期は令和12年度のままとしている。第2章の滑川を取り巻く現況について、こちらについても変更なしの予定としている。第3章まちづくりの目標に、まちづくり共創会議で議論した市の将来ビジョンを盛り込むこととした。第4章の計画の推進体制について、変更はなしの予定としている。前期基本計画については、マニフェスト等に合わせて改定を行うこととしている。また、第2期総合戦略を総合計画と一体のものとして策定したが、この総合戦略は、国のデジタル田園都市国家構想総合戦略にあわせて改定することとしている。

資料2は市の将来ビジョンについて特に説明する。まず、滑川市の将来ビジョンについて、11月に開催しましたまちづくり共創会議で報告したが、滑川市の自然や文化、多くの企業が立地している環境、市を構成する様々な要素が市民の幸福度を高めていること着目して、将来ビジョン案を作成した。将来ビジョン案に市民の皆さんにご意見を頂く市民セッションを開催する予定としている。また今回の審議会の場でも、将来ビジョン案について、ご意見等いただければと考えている。また、政策推進の柱として、「強く 優しく 輝く滑川」を将来ビジョン達成のための政策推進の柱とすることとしている。

続いて資料3、前期基本計画の主な改定検討案について説明する。追加となったものは、DXを活用した市民サービスの向上、SDGs未来都市の実現である。また、現在持続可能な行財政運営の推進を市民との対話による開かれた市政運営と市職員の能力を活かす組織づくりの2つに分けた。

最後に、資料4の地方版総合戦略の改定について説明する。総合戦略についても、国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」の策定に伴い、市の総合戦略を総合計画と合わせて改定を行うこととしている。

【会長】

今ほどの説明に対して、ご意見あれば。

【委員】

今回の改定において具体的なKPIはどのように作成するのか。

【課長】

KPIは、政策を実行する上の成果目標であることから、政策体系に基づいて庁内で改めて検討する。新たに設定した結果、従前と同じとなるものも多くあると考える。

【会長】

デジタルライゼーションで、市役所内部の各課が連携することで新しい市民のためのサービスを生み出していく、或いは、今までのサービスをより良いものにするなどの取り組みをして初めてDXだと考える。現在の取り組み状況は。

【市長】

市役所内部のDXの取り組みとしては、今年度から、民間の人材を課長として招へいし、DX推進課を設置した。このDX推進課が中心となり、市役所内の業務棚卸の洗い出しをし、デジタル化できるもの、正規職員以外の職員でもできるものなどに整理しており、DXを推進する下地づくりを現在行っている。また、副市長をCDOとし、CDO補佐官を外部から任命しオンラインなどでご意見をいただいている。民間の力を借りながら、少しずつ変革を進めたい。

【会長】

SDGsの未来都市の実現とあるが、内閣府のSDGs未来都市公募に応募するのか。

【市長】

現在来年の2月の応募を検討している。

【会長】

SDGs未来都市の実現というのがかなり大きなテーマである。未来都市の実現に向けた課題を抽出して、指定を受けるためにも何か活動されるという理解でよいか。

【市長】

そのとおりである。

【会長】

基本は、従前のものを強い滑川、優しい滑川、輝く滑川に組み替えたものであり、従前から引き継いだ部分もかなりあるという気がする。

【委員】

教育のデジタル化に関して詳しく聞かせていただければ。

【会長】

今1人1台タブレットを整備した。要するにスマホを持っていることと同じようにわからないことを子どもたちがしらべることができる。要するに、先生に言われて

勉強しておしまいではなくて、自分の興味関心があることを調べることができるようになった。今までのように先生が一方的にしゃべる授業ではなくて、もう子どもたちが疑問を持ったことをみずから調べることができる。興味関心を広めて、主体的に自立した学びができる。そういう子供たちを育てていくことが、次の時代をつくる人材育成になる。必ずしもタブレットありきの話ではなくて、学び方を身に着けることであると考えている

【教育長】

子どもたちが当たり前前にタブレットを使用することを目標としている、デジタルを不得意としている先生もいるので、先生同士でデジタルの活用に差が出ないように学校や教育センターなどで工夫をしている。学校でも家庭でもタブレットを使用できるように、放課後に学校の保管にタブレットを入れっぱなしにするのではなく、子どもたちが家庭学習で使用し、夜間充電し、学校に持ってきてもらう取組みを始めた。また、特別な支援が必要な子どもたちの支援にもデジタルを活用したいと考えている。デジタル化を本当に子どもたちのため、教育のため、未来のために様々な活用が進んでいます。

【委員】

国のデジタル田園都市国家構想総合戦略に合わせて、市の総合戦略を改定し、総合計画に反映するという理解でよいか。

【事務局】

その通りである。総合戦略の見直し案については、次回お示しする、実施計画への反映等は今後行う予定である。

【委員】

SDGsのところで、循環型社会の実現が取組みとなっているが、これは取組みではないのでは。目標と取組みなどが混ざっていると感じた。

【課長】

指摘のとおり。実現するためには何に取り組む必要があるのかを精査する。

【委員】

市外の方に滑川市を案内することになり、博物館にいて70周年記念の写真展やアメリカなどを案内した。アメリカで防災備蓄の展示をみて、参加者が赤ちゃんのオムツが備蓄されていると驚いていた。滑川市の良いところを解説するボランティアなど育てれば、もっと滑川の魅力が伝わるのではと思った。

【委員】

農振除外が難しくなり滑川市へ企業の進出が難しくなったが、滑川インターチェンジ付近に進出したい企業が多くいる。また、滑川市の製造品出荷額について、薬業もかなり貢献していると考えている。薬業振興への取組みを知りたい。製薬業も出荷停止などもあった。薬剤師の確保が難しいとも聞いているのでその対応も必要である。海洋深層水について、入善などは養殖などに活用しているが滑川市の活用方

法を知りたい。

【市長】

インターチェンジ付近に工業団地をつくってほしいという要望されることがある。過去にその土地を造成した後に、工業団地を誘致していた。現在は、誘致がまとまってから、造成をするという流れになっている。用排水路の補修を国営事業で実施したため、8年間農振除外ができなくなった。工場を誘致するための方策を県の方で考えていただいた。工場の話が来れば、適地があれば誘致を進めたいと考えている。農振除外が必要な住宅分譲は、8年間まったくできない。今までに住宅団地造成ラッシュで沢山できたが、今後は、農振除外をしての住宅団地住宅地っていうのはなかなか厳しい。薬業の出荷額が落ちているというふうには感じている。薬剤師確保のための薬学部の定員増なども必要と考えている。売薬文化が本市に根付いていることが市の魅力ともなっており、まちづくりに活用するとともに薬業振興に力を入れていきたいと考えている。滑川市では海洋深層水を水産研究所などが養殖などの事業に使用している。非水産分野では、ほたるいかミュージアムやタラソピアで使用しているが、タラソピアは閉館となった。富山の会社が海洋深層水を使うときは、入善より近い滑川が有利であり、実際、富山の会社が滑川市で取水する海洋深層水の多くを使っている。更なる活用については検討したい。

【委員】

若い女性の県外流出が問題視されている。大学の薬学部のサテライトキャンパスなどを誘致して、滑川市の売薬文化などと結びつけて若い人を育成するなどの手段もあるが行政だけではできないので、民間との連携などを含めて検討が必要と考える。

【市長】

女性の県外流出を防ぐには、女性が働ける環境も含めて、模索中である。危機意識を持ち、考えていきたい。

【会長】

意見も出尽くしたので閉会とする。